

## 船舶事故調査報告書

平成24年1月26日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 石 川 敏 行  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成23年4月4日 08時00分ごろ
発生場所	千葉県勝浦市勝浦漁港沖 勝浦市所在の勝浦灯台から真方位153°14.4海里付近 （概位 北緯34°55.2′ 東経140°26.9′）
事故調査の経過	平成23年4月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 漁船 <sup>いしや</sup> 石屋丸、6.4トン CB2-70203（漁船登録番号）、個人所有 11.99m (Lr) × 3.25m × 1.28m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数100、平成2年5月 B 漁船 <sup>よしえい</sup> 義栄丸、4.9トン CB3-82725（漁船登録番号）、個人所有 11.53m (Lr) × 2.90m × 0.95m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数90、昭和59年9月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 60歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和59年2月2日 免許証交付日 平成20年5月7日 （平成26年2月1日まで有効） B 船長B 男性 73歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和50年3月14日 免許証交付日 平成21年4月22日 （平成27年4月9日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	A 左舷外板中央部に直径約45cmの破口を伴う凹損と船橋左端サッシ窓 亀裂 B 船首部に擦過痕
事故等の経過	A船は、船長Aほか1人が乗り組み、魚群探索中のB船の後方で船首を 西に向けて停船したのち、B船が、西方に離れていくのを確認し、きんめ だいはえ縄漁の操業を開始した。 船長Aは、前部甲板の甲板員が船首右舷側からはえ縄を投入したのち、 船尾右舷側に移動してはえ縄を投入しようとしていたところ、B船の船首

	<p>とA船の左舷中央とが衝突した。</p> <p>船長Aは、右舷側ではえ漁の投縄を行っており、左舷側から接近してくるB船に気付かなかった。</p> <p>B船は、船長Bほか1人が乗り組み、船長Bが魚群探知機を見ながらリモコンで操船し、甲板員が前部甲板で漁具の準備を行い、速力約2ノットで針路を適宜変えながら、魚群を探索していた。</p> <p>船長Bが、魚群を発見し、GPSプロッターで船位を確認した後、視線を前方に戻したとき、初めてA船に接近していることに気づき、右舵一杯、機関後進としたが、間に合わず、平成23年4月4日08時00分ごろ、勝浦灯台南東方沖において、A船の左舷外板中央とB船の船首が衝突した。</p> <p>船長Bは、衝突前の約20分間、付近に船はいないと思い、レーダーを見ずに魚群探知機を注視していた。</p> <p>両船は、浸水及び油の流出はなく、両船とも自力で帰航した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：波高 約2m</p>	
その他の事項	<p>A船の左舷中央の破口箇所は、上甲板より上部であり、浸水しなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>A なし、B あり</p> <p>A なし、B なし</p> <p>なし</p> <p>A船はきんめだいはえ縄漁の投縄中、B船は魚群探索を行いながら航行中、勝浦灯台南東方沖において、両船が衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Bは、魚群探索に意識を集中し、適切な見張りを行っていなかったことから、A船に接近していることに気付かなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、勝浦灯台南東方沖において、A船がはえ縄漁の投縄中、B船が魚群探索を行いながら航行中、船長Bが適切な見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	